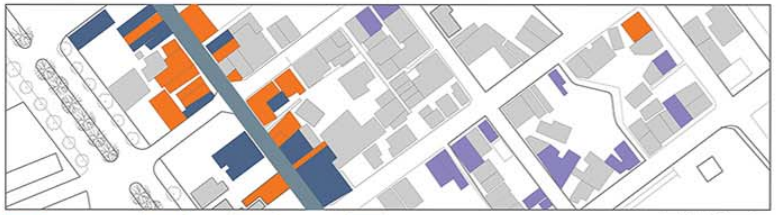


現状図

2 階平面図

1 階平面図

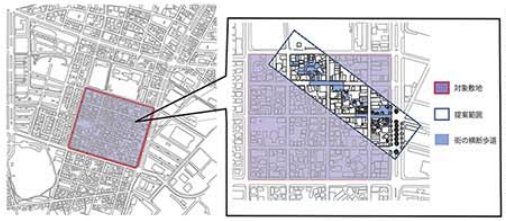
さくら通り側の道の入り口となるのは空き店舗を改修して設けた食堂。朝はご老人の、昼は主婦たちの、夜は大学生たちの溜まり場となる。
食堂のテラスから続くペデストリアンデッキは街の人々に開放された図書スペースとなっており、ゆるやかに道の反対側の託児所へ動線をつなぐ。
託児所に預けられた子供たちと地域のご老人方の時間がお互いに絡み合う。

街の横断歩道

街に、既存の道路とは全く異なる方向で「街を横切る道」を提案する。空き地や空き家の改修により敷地東側にあるさくら通りから商店街、小学校へとつながる新たな一本の道をつくる。

道上には食堂、図書スペース、託児所の 3 つのゾーンがあり、敷地の傾斜を利用してお互いがゆるやかにつながる。

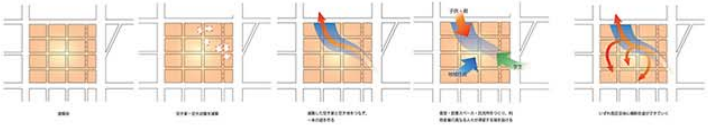
それぞれの施設利用者層が時間により異なることを利用し、時間差の滞留から豊かな空間が形成される。



<敷地分析>
北九州市八幡東区の祇園町銀天街を含む一角。

1970 年代の高度経済成長期に「鉄の街」として栄えていたが、現在は超高齢化した町となり、歯抜け状にできた空き地や空き家、駐車場が目立つ。また、街の中心であった商店街はすたれている。

敷地北側に小学校、児童公園、西側には整備された住宅地、東側にはさくら通りや九州国際大学、JICA 九州本部がある。



<食堂>
空き店舗の 2 階を取り除き、アーケード内に光を取り込むと同時に、2 階のテラスでさくら通りと商店街をつなぎ新たな道への入り口となる。

<図書スペース>
ペデストリアンデッキを持つ道の上の図書スペース。
食堂から託児所へ行く間の道に位置する。
本を読むだけでなく、ボードゲームなど趣味を楽しむ場としても利用できる

<託児所>
空き家を改修した託児所を点在させる。
周辺に住宅が多く、地域のご高齢の方々とともに子供を育てていける環境。
図書の道と中庭がつながり、大きな広場となる。